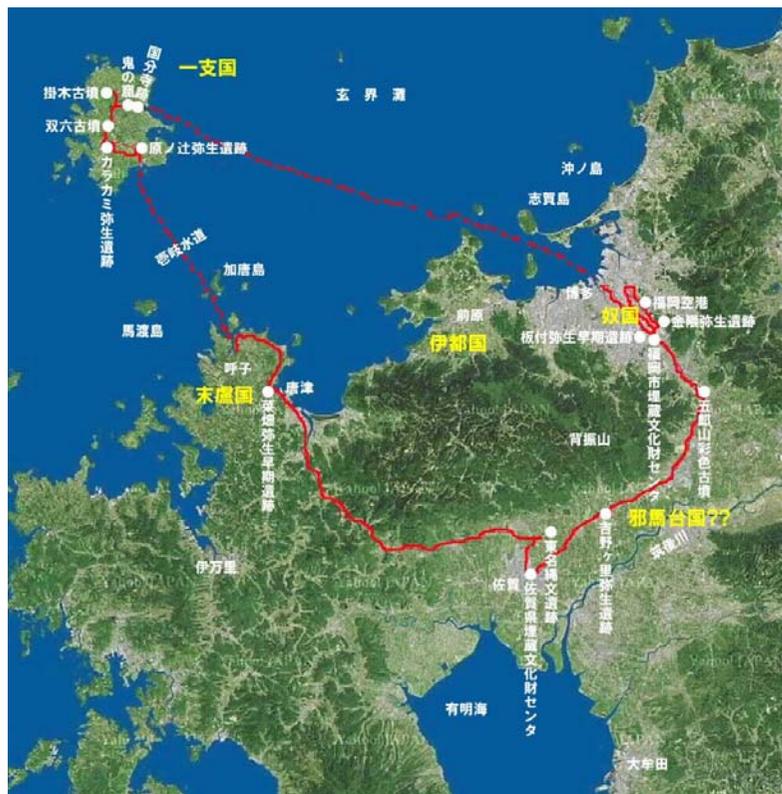


13.

写真アルバム 北部九州 魏志倭人伝の世界 壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて 2006.9.7. & 9.8.0



9月7日(木)

1. 伊丹空港 JL2051		9:05 発
2. 福岡空港第2ターミナル	10:15 着	
3. チャータバス 昭和自動車		10:40 発
4. 史跡 五郎山古墳 古墳後期	10:50 着	11:30 発
5. 特別史跡 吉野ヶ里遺跡東口 弥生前・中・後期	11:50 着	13:30 発
6. 史跡 久保丸山遺跡 縄文晩期 時間取れずバス	13:40 着	14:00 発
7. 史跡 東名遺跡 縄文早期	14:10 着	14:20 発
8. 佐賀県立博物館	14:30 着	15:00 発
9. 史跡 久里双水古墳 古墳初期 時間なく車窓より	16:00 着	16:10 発
10. 史跡 菜畑遺跡 縄文晩期(弥生早期)・末盧館	16:20 着	17:10 発
11. 国民宿舎 呼子ロッジ	17:40 着	19:00 夕食

9月8日(金)

1. 国民宿舎 呼子ロッジ	朝食	7:00
2. 呼子 朝市		7:40 発
3. 呼子フェリーターミナル 壱岐行 311 便	7:55 着	8:30 発
4. 壱岐 印通寺港	8:40 着	8:00 発
5. チャータバス 壱岐交通		10:10 着
6. 特別史跡 原の辻遺跡 弥生中期	10:25 着	12:00 発
7. 壱岐の史跡・遺跡 バスツアー ・カラカミ遺跡・双六古墳・風土記の丘・掛木古墳 ・笹塚古墳・鬼の窟・国分寺跡		
8. 芦辺港 ジェット・foil 124 便	14:00 着	14:20 発
9. 博多埠頭第一ターミナル	15:25 着	
10. チャータバス 昭和自動車		15:35 発
11. 史跡 金隈遺跡 弥生初期から後期末まで	15:55 着	16:20 発
12. 福岡市埋蔵文化財センター	16:25 着	16:55 発
13. 史跡 板付遺跡 縄文晩期・弥生初期 バス	17:00 着	17:15 発
14. 福岡空港第2ターミナル JL2058	17:25 着	18:25 発
15. 伊丹空港	19:50 着	

彩色壁画を持つ円墳 壁画は人物・動物・船・家など謎の具象画で構成
 弥生時代における「クニ」の中心集落の全貌や弥生時代 600 年間の移り変わりを
 知ることができ「邪馬台国」の時代を彷彿とさせる
 縄文晩期から弥生前期の 118 基の支石墓と 12 基の古墳群の複合遺跡が移設
 縄文早期の貝塚群 三内丸山遺跡より古い国内最古の約 7000 年前の木製食器
 佐賀は遺跡の宝庫。大陸に一番近い場所縄文・弥生の遺跡は掃いて捨てるほど
 日本最古級の大型前方後円墳 末盧国首長墓? 近畿とは別の文化圏の古墳との説も
 日本最古の水田跡・炭化米が発見、2500 年前に日本で稲作が証明された
 大陸との古くからの交流、稲作文化の伝播、発展を展示、

日本三大朝市のひとつ

弥生時代の大集落 「一支国」の王都?魏志倭人伝の国で唯一場所が特定
 風土記の丘 : くりぬき式家形石棺の掛木古墳、百合畑古墳群、金銅製馬具の
 笹塚古墳、中世の山城・生池城跡を巡る歴史散策公園
 カラカミ遺跡 : 弥生の壱岐を代表する拠点集落遺跡 祭祀的な性格
 双六古墳 : 6 世紀後半の前方後円墳
 鬼の窟 : 6 世紀後半の横穴式石室

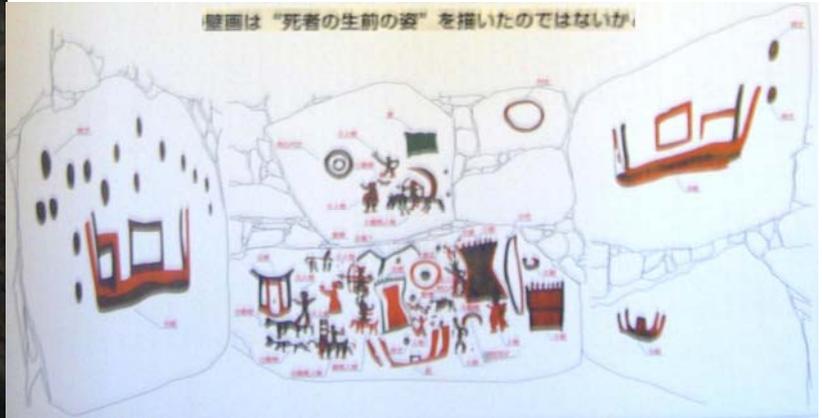
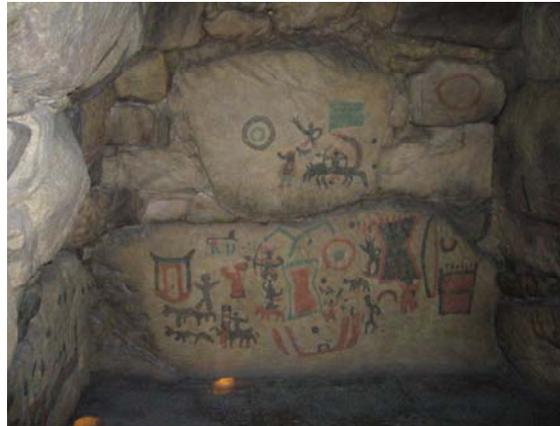
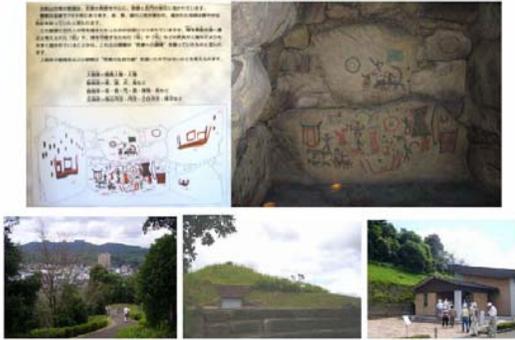
弥生時代の共同墓地、壱棺 348 基土坑墓 119 基、石棺墓 2 基、人骨 136 体
 福岡市の遺跡 奴国・博多遺跡群の展示など
 日本最古の稲作集落跡のひとつ 稲作の起源を縄文時代にまで遡らせた最初の遺跡

縄文・弥生時代から魏志倭人伝・卑弥呼の弥生後期そして古墳時代と繋がる日本の黎明期 大陸からの日本列島への入りであった北部九州。
 北部九州に鉄と共に水田稲作が伝わり弥生の時代が始まり、数々の渡来の人達がやってきて日本の国づくりがはじまった。
 晴天に恵まれた9月7・8日 を縄文の仲間20数名と北部九州 壱岐・筑前・筑後の遺跡 魏志倭人伝の世界を訪ねました。
 また、私にとっては 大陸から日本に入ってきた「鉄」が日本をどのように変えていったのかを知るまたとない機会。
 弥生の時代の幕開けを告げる最古の水田が見つかった唐津菜畑遺跡 以前より 一番いきたかった朝鮮半島と北部九州との中継地 壱岐 一支国の王都 原の辻弥生遺跡、九州邪馬台国の王都?筑紫吉野ヶ里 そして 奴国の中心を南北に伸びる丘陵地に眠る弥生の渡来人達の大墳墓郡と弥生の時代全体の流れを知ることが出来ました。水田稲作と鉄と倭の国 弥生の時代を作った渡来人たちが今の自分たちにとってどんな存在なのか???? 垣間見る楽しい旅でした。
 いずれもよく知られた遺跡ですが、詳細をまとめると膨大 簡単にはまとめ切れそうにないので これらの遺跡について「どんな場所で歴史が生まれたのか」そして「今 どのないなっているのか」と私の興味のおもむくままパチパチ撮った写真を Country Walk 風にアルバムにまとめました。

1. 筑紫 五郎山彩色古墳 6世紀 古墳時代の円墳 肥後菊池川流域の北 筑紫筑後川流域にも 彩色古墳を作った謎の渡来集団がいた

1. 筑紫 五郎山彩色古墳 6世紀 古墳時代

肥後菊池川流域の北 筑紫筑後川流域にも 彩色古墳を作った謎の渡来集団がいた



福岡平野の南端 西側から背振山塊 東側の宝満山が迫る狭い丘陵地を抜けるとその南には有明海に注ぐ筑後川が東西に流れる広大な筑後平野が広がる。その境の丘陵地 筑紫野市南端から小郡市にかけての丘陵周辺には数多くの渡来人が住んだところ。そこにも古墳時代 熊本県菊池川流域と同じ石室に彩色画が描かれた謎の彩色古墳があり、立派な古墳館が建っている。ここにも石室の壁に色鮮やかに人物・動物・船・家などが描かれている。これらの絵はここに眠る人達の死後の世界・世界観を表している。

一番気になったのは石室の入り口 左右の石に描かれた石棺を積んだ船の絵。

私はこれら彩色古墳のあるところ いずれも古代製鉄と関連する川の流域にあり、朝鮮半島からやってきた渡来の製鉄集団の根拠地と思っている。五郎山古墳の周辺には鉄の痕跡はまだ見つからないらしいが・・・。いまだ、よく判らないが 北朝鮮高句麗系の人達で 大和高松塚古墳やキトラ古墳などのルーツではないかと議論されている。

2. 筑紫 吉野ヶ里弥生遺跡 背振の山を背に卑弥呼の時代の王都を髣髴とさせる楼閣と環濠 まさに王都を思わせる弥生の集落



2. 筑紫 吉野ヶ里弥生遺跡 背振の山を背に卑弥呼の時代の王都を髣髴とさせる楼閣と環濠



吉野ヶ里が背振山をバックに幾つもの楼閣が立ち並ぶこんな素晴らしい歴史公園になっているとは・・・まるで 映画のロケ地のセットを見るよう。楼閣に登って周囲をながめると眼下に広大な筑後平野が広がり、まさに王城。 卑弥呼の時代の繁栄がイメージされる。この地の渡来系弥生人は福岡・山口に渡ってきた土井が浜人とは少し違って 大陸から直接やってきたのではないかと・・・

3. 筑後 縄文草創期の貝塚群 東 名 遺 跡 巨勢川調整池



縄文時代の初めの 7000 年前頃この地は有明湾の海岸地帯の湿地帯
 ここには 幾つもの縄文草創期の貝塚があり、おびただしい貝類と共に湿地の泥の中に埋もれたおびただしい
 数の木製品やカゴ類が出土。調査は今も続いていて、幸運にもどろどろの中からカゴを取り出す作業を見まし
 ました。佐賀平野を守る広大な遊水地の中 池の中に 沈んでしまうのか・
 背振山をバックに広大な佐賀平野がどこまでも田園地帯の青空が素晴らしい景色を作っていました

4. 菜 畑 遺 跡 縄文晩期・弥生早期 大陸文化の先進地 唐津・「末盧国」 で日本最古の水田が出土した 弥生時代の始まり



唐津市の丘陵地の山裾 市街地の中である。
 ここで鎌や石包丁・炭化米などと共に最古の水田跡が見つかった。弥生時代の始まりである。今は新興住宅地の道路の下。
 復元水田に背丈の高い古代米が赤紫の稲穂を揺らしているのが印象的でした。

5. 壱岐への玄関口 呼子 呼子から壱岐へは 島伝い 数々の人達がこの海を行き来した



呼子は古代も今も壱岐・対馬の玄関口
 以前訪れた時は博多から。
 「島影の見えぬ玄界灘を本当に多くの渡来
 人が海をわたったのか ???」との疑問。
 でも 呼子からは航路にずっと島影が見え
 て この荒海を安心して渡れたろう

壱岐への玄関口 呼子は佐賀県 壱岐は長崎県 長崎県から直接壱岐へは行けない。 今は呼子からフェリーで1時間ちょっと 博多から高速船で45分 近いもの。

6. 魏志倭人伝 壹岐「一支国」の中心集落 原の辻弥生遺跡 日本の文化はみな ここを中継して伝来した



壹岐が一番高いところで220m 海からみると本当に平坦な島に見える。ところが島に入ると魏志倭人伝にも書かれているごとく 小さな丘陵地が幾重にも島全体をおおう。魏志倭人伝に書かれた国唯一王城の地が特定された「一支国」の王都 原の辻遺跡。島の南東 かつては湿地であった周囲を丘陵地に囲まれた広い平地にあり、小さな岡



を隔てて直ぐに東の海岸部で水路が通じており、原の辻には船着場があり、ここまで直接船が入ったという。日本の文化はみなこの地を通して日本に伝来した。鉄の生産の出来ぬ日本へは大量に鉄素材が日本に持ち込まれたが、この地をかならずや経由したろう。今もこの原の辻遺跡は周囲を丘陵地に囲まれた田園の中にあり、発掘調査が続いている。訪れた時にも この遺跡の高台に祭祀の建物が復元中であり、また 竪穴住居群や環濠の発掘調査が続けられており、学芸員の人に気楽にシートをあけて解説をしてもらえた。 そのオープンさがうれしい。



「鉄」については 学芸員の話によると あちこちで鉄器は数多く出土するが、鍛冶工房や製鉄炉の跡は不思議と出てこない。

原の辻にも鍛冶工房があったと考える向きもあるが、いまだ確証はないという。

7. 杵岐の古墳群 を 訪ねて

大和王権の時代にも「一支国」の重要性は変わらない

多くの古墳が島の中央丘陵地に作られ 朝鮮半島と大和の交流を支えました

古墳時代になっても 大陸・朝鮮半島との交流の中継地としての役割は重要性は変わらず。

しかし、ここを支配した首長たちはその本拠を原の辻から島の北部丘陵地に移し、そこに古墳を築いている。

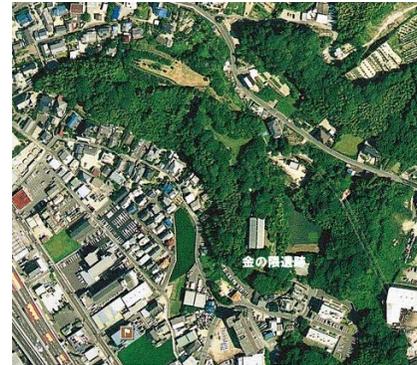
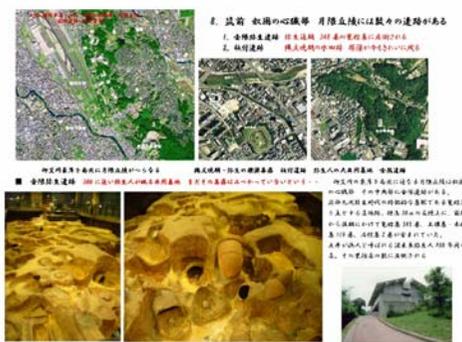
大和からの支配の高まりによる大きな支配層の交代があったのかも知れぬ



8. 筑前 奴国の心臓部 月隈丘陵には数々の遺跡がある

1. 金隈弥生遺跡 弥生通期 348 基の甕棺墓に圧倒される

2. 板付遺跡 縄文晩期の水田跡 環濠が今もきれいに残る



奴国の中心地 月隈丘陵周辺 500 に近い弥生人が眠る金隈遺跡 弥生の尺度 板付式土器 板付遺跡



御笠川の東岸を南北に連なる月隈丘陵は奴国の心臓部 その中央部に金隈遺跡がある。

北部九州弥生時代の特徴的な墓制である甕棺墓を主とする墓地跡。標高 30m の丘陵上に、前期から後期にかけて甕棺墓 348 基、土壌墓・木棺墓 119 基、石棺墓 2 基が営まれていた。土井が浜人と呼ばれる渡来系弥生人 400 年間の墓。その甕棺墓の数に圧倒される

この遺跡ではありませんがこの北部九州に眠る渡来系弥生人の時代識別から弥生人の村で人口爆発が起こり、縄文から弥生の世界への移り変わりが「戦い」というよりも「融合」によってきたことがわかってきた。

北部九州 魏志倭人伝の世界 壹岐・筑前・筑後を訪ねて 縄文の会

2006.9.7. & 9.8.



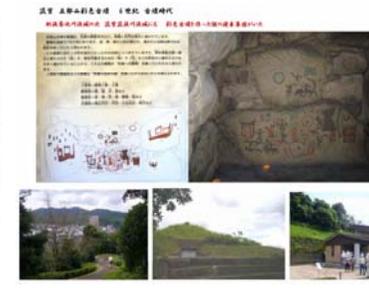
9月7日(木)		
1. 伊丹空港 JL2051		9:05 発
2. 福岡空港第2ターミナル		10:15 着
3. チャーターバス 昭和自動車		10:40 発
4. 史跡 五郎山古墳 古墳後期		10:50 着 11:30 発
5. 特別史跡 吉野ヶ里遺跡東口 弥生前・中・後期		11:50 着 13:30 発
6. 史跡 久保泉丸山遺跡 縄文晩期 時間取れずバス		13:40 着 14:00 発
7. 史跡 東名遺跡 縄文早期		14:10 着 14:20 発
8. 佐賀県立博物館		14:30 着 15:00 発
9. 史跡 久里双水古墳 古墳初期 時間なく車窓より		16:00 着 16:10 発
10. 史跡 菜畑遺跡 縄文晩期(弥生早期)		16:20 着 17:10 発
11. 国民宿舎 呼子ロッジ	夕食	17:40 着 19:00
9月8日(金)		
1. 国民宿舎 呼子ロッジ 朝食		7:00
2. 呼子 朝市		7:40 発
3. 呼子フェリーターミナル 壱岐行 311 便		7:55 着 8:30 発
4. 壱岐 印通寺港		8:40 着 8:00 発
5. チャーターバス 壱岐交通		10:10 着
6. 特別史跡 原の辻遺跡 弥生中期		10:15 着 10:15 発
7. 壱岐の史跡・遺跡 バスツアー ・カラカミ遺跡・双六古墳・風土記の丘・掛木古墳 ・笹塚古墳・鬼の窟・園分寺跡		10:25 着 12:00 発
8. 芦辺港 ジェット・ファイル 124 便		14:00 着 14:20 発
9. 博多埠頭第一ターミナル		15:25 着
10. チャーターバス 昭和自動車		15:35 発
11. 史跡 金隈遺跡 弥生初期から後期まで		15:55 着 16:20 発
12. 福岡市埋蔵文化財センター		16:25 着 16:55 発
13. 史跡 板付遺跡 縄文晩期・弥生初期 バス		17:00 着 17:15 発
14. 福岡空港第2ターミナル JL2058		17:25 着 18:25 発
15. 伊丹空港		19:50 着

彩色壁画を持つ円墳 壁画は人物・動物・船・家など謎の具象画で構成
 弥生時代における「クニ」の中心的な集落の全貌や弥生時代 600 年間の移り変わりを
 知ることができ「邪馬台国」の時代を彷彿とさせる
 縄文晩期から弥生前期の 118 基の支石墓と 12 基の古墳群の複合遺跡が移設
 縄文早期の貝塚群 三内丸山遺跡より古い国内最古の約 7000 年前の木製食器
 佐賀は遺跡の宝庫。大陸に一番近い場所縄文・弥生の遺跡は掃いて捨てるほど
 日本最古級の大型前方後円墳 末盧国首長墓? 近畿とは別の文化圏の古墳との説も
 日本最古の水田跡・炭化米が発見。2500 年前に日本で稲作が証明された
 大陸との古くからの交流、稲作文化の伝播、発展を展示。

日本三大朝市のひとつ

弥生時代の大集落 「一支国」の王都で魏志倭人伝の国で唯一場所が特定
風土記の丘 : くりぬき式家形石棺の樹木古墳、百合畑古墳群、金銅製馬具の
 笹塚古墳、中世の山城・生池城跡を巡る歴史散策公園
カラカミ遺跡: 弥生の壱岐を代表する拠点集落遺跡 祭祀的な性格
双六古墳 : 6 世紀後半の前方後円墳
鬼の窟 : 6 世紀後半の横穴式石室

弥生時代の共同墓地、壱棺 348 基土坑墓 119 基、石棺墓 2 基、人骨 136 体
 福岡市の遺跡 奴国・博多遺跡群の展示など
 日本最古の稲作集落跡のひとつ 稲作の起源を縄文時代にまで遡らせた最初の遺跡



1. 筑紫 五郎山彩色古墳 6世紀 古墳時代

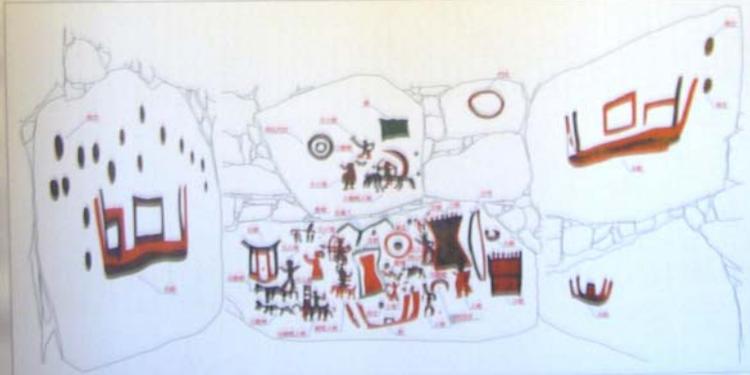
肥後菊池川流域の北 筑紫筑後川流域にも 彩色古墳を作った謎の渡来集団がいた

五郎山古墳の壁画は、玄室の奥壁を中心に、側壁と支門の袖石に描かれています。
壁画は全部で79ヶ所にあります。赤、黒、緑の三色が使われ、描かれた当時は鮮やかな色彩を放っていたと思われます。

この壁画に古代人が何を描きたかったのかは謎にまつまれています。硝を真泉の国へ運ぶと考えられた「船」や、硝を守護するための「騎」や「弓」などの武器が人物などよりも大きく描かれていることから、これらの壁画が「死者への鎮魂」を願っていたものと思われます。

人物系や動物系などの壁画は「死者の生前の姿」を描いたのではないかと考えられます。

人物系＝騎馬人物・人物
動物系＝馬、猪、犬、鳥など
器物系＝騎・硝・弓・旗・建物・船など
文様系＝同心内文・内文・三日月文・珠文など



2. 筑紫 吉野ヶ里弥生遺跡

背振の山を背に卑弥呼の時代の王都を髣髴とさせる楼閣と環濠



筑後 吉野ヶ里歴史公園 2006. 9. 7.

吉野ヶ里遺跡 南内郭と集落を取り囲む環濠





筑紫 吉野ヶ里歴史公園 吉野ヶ里弥生遺跡



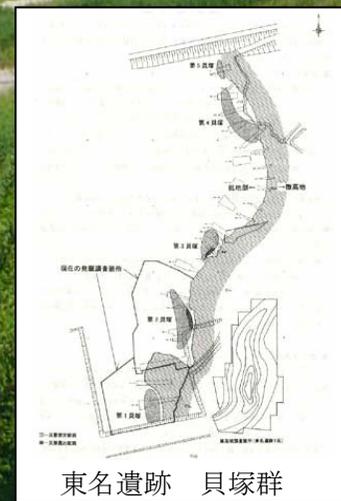
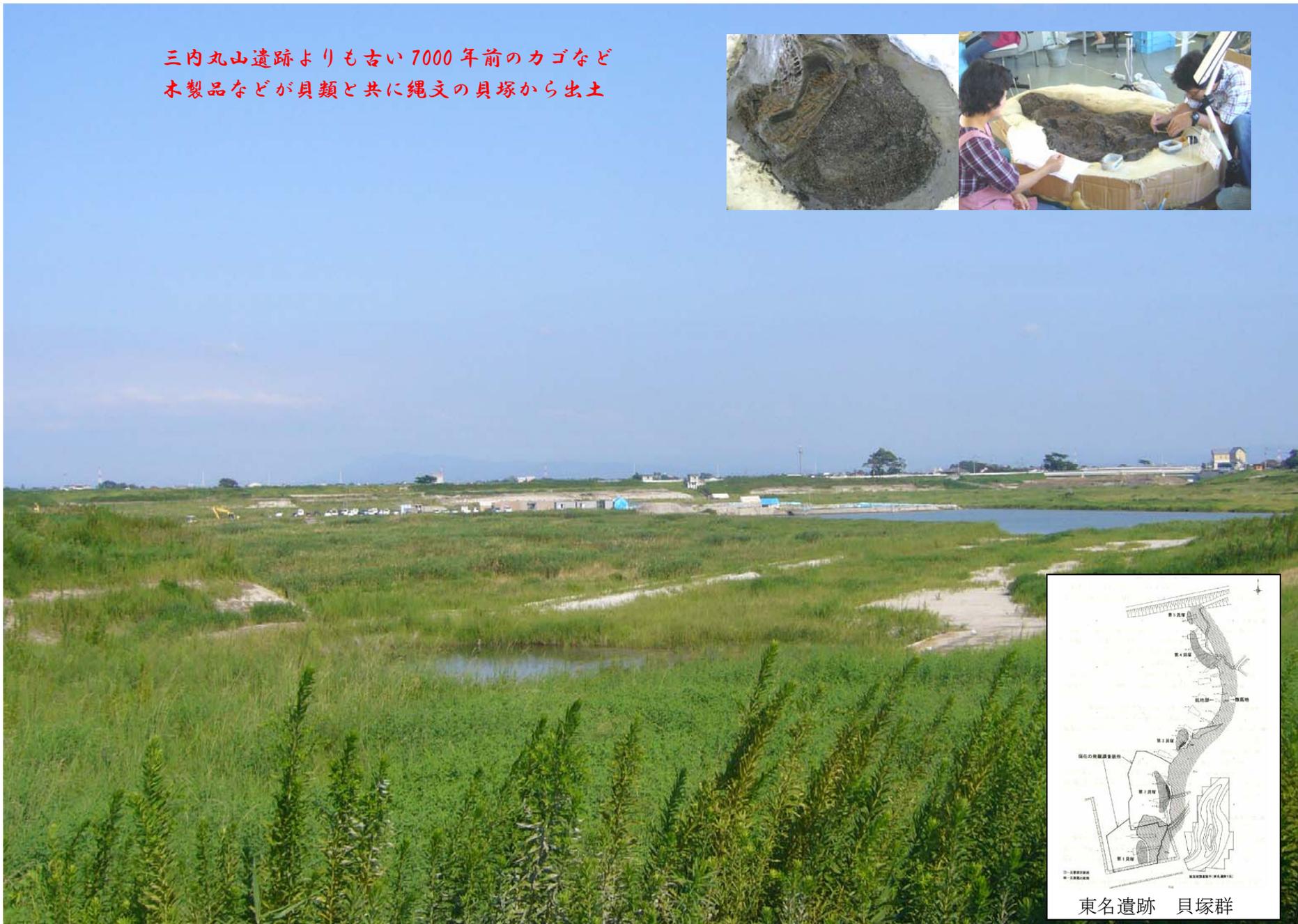
吉野ヶ里遺跡 北内郭 祭祀の場



吉野ヶ里遺跡 倉と市

3. 筑後 縄文草創期の貝塚群 東名遺跡 巨勢川調整池 2006.9.8.

三内丸山遺跡よりも古い7000年前のカゴなど
木製品などが貝類と共に縄文の貝塚から出土



4. 菜畑遺跡 縄文晩期・弥生早期 大陸文化の先進地 唐津・「末廬国」 で日本最古の水田が出土した

大陸・朝鮮半島との文化の先進地「末廬国」の海岸に近い山裾に縄文時代の水田跡 今は都市計画道路の下に
でも すぐそばの末廬館 復元水田では背の高い古代米が赤紫の稲穂をつけていました



発掘調査—なぜ遺跡を発掘するのか？—
発掘調査は文字による記録がない時代（縄文時代、日本では旧石器・縄文・弥生・古墳時代）の社会がどんな状態であったかを明らかにすることのできる手段としては、現在最も有効な方法です。

通常の場合、遺跡は土か石造りなどの発見に伴い、その事前調査として行われる場合が多く、学術的な目的のために調査が行われるケースは極めて少ないのが現状です。そこで開発に伴う事前の発掘調査で、学術的に重要な発見が相次いでいます。調査後は出土品や遺跡の検封を行い、学術報告書を行います。この記録保存で、遺跡の遺跡は再現することになります。

菜畑の発見
きっかけ 遺跡発見のきっかけは都市計画道路建設に伴う文化財調査が、昭和54年（1979）12月に行われたことに始まります。

調査 調査は昭和56年12月から昭和58年8月にかけて本格的に行われ、その結果、縄文時代晩期の炭化米・石臼・灰・水田などが発見され、日本最古の水田跡であることがはっきりしました。

整備 市では、この日本の稲作発祥の地である菜畑遺跡を公有化し、市民の歴史学習の場とするために、歴史博物館「末廬館」と遺跡公園「出あいの広場」を整備し、菜畑遺跡の出土品を中心とした稲作遺跡と水田跡についての展示、日本最古の水田の復元と稲刈り体験及び縄文の森の復元を行い、野外博物館としての機能と体験学習施設としての機能を合わせ持たせました。



5. 壺岐への玄関口 呼子 2006. 9.7. & 8.



呼子海岸の夜明け 2006.9.8.

佐賀県 呼子の朝市 2006.9.8.



6. 魏志倭人伝 壹岐「一支国」の中心集落 原の辻弥生遺跡 日本の文化はみな ここを通過して伝来した





船着き場跡(西から・八反地区)
弥生時代中期



環濠遺物出土状況(高元地区)／弥生時代後期

原の辻遺跡は、大正時代に地元の研究
者によって発見され、昭和の初めころに学
会に紹介されました。戦後には、県や町の
教育委員会及び東亜考古学会などによっ
て発掘調査が行われ、大規模遺跡として
知られていきましたが、平成五年度以降に
行われた本格的な調査の結果によって、
わが国を代表する弥生時代の多重環濠集
落で、「一支国」の中心となる王都である
ことが判明し、「魏志倭人伝」に記載され
た国々の中で、国の中心が明らかにした
初めての遺跡となりました。

このことから平成十二年十一月二十四
日に、弥生時代の遺跡としては、登呂遺
跡(静岡県)、吉野ヶ里遺跡(佐賀県)
に次いで国の特別史跡に指定されて
います。



時間と海流の交差点
「原の辻遺跡」
登壇イメージ図



原の辻遺跡全景(西から)内海・八幡平島を望む

国特別史跡
原の辻遺跡



HARUNOTSUKI
原の辻遺跡
マスコットキャラクター
原の辻くん





呼子からフェリーで島伝いに約1時間 呼子からは常に島影を伝いながら、海峡を渡れる 博多だと双は行かない
 平野部は小さく、島のほとんどが小さな丘陵地で埋め尽くされ、意外と平地は少ない 島の最高点 岳の辻で標高 212m 平坦な島である
 原の辻は島の南東部にある平地で、周囲を丘陵地に囲まれた島最大の平地部
 弥生前期末から古墳時代に至る大集落 朝鮮半島と倭国の交流で栄えた一支国の中心・交易都市がある







壱岐 原の辻弥生遺跡 周囲を丘陵に囲まれた魏志倭人伝「一支国」の王都 朝鮮半島と倭の交易都市

祭祀建物群 復元現場 2006.9.8.



竪穴住居・平建住居群発掘現場



環濠発掘現場



8月8日 原の辻遺跡では 祭祀の建物群の復元 ならびに 住居跡 環濠跡の発掘がつづけられていました

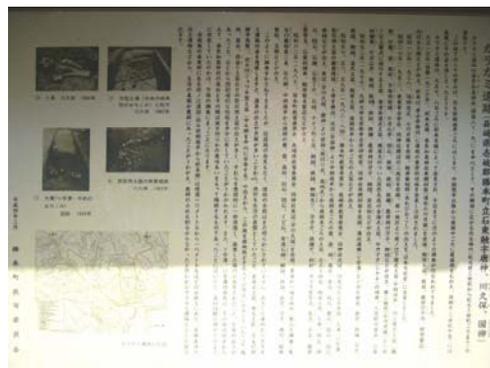
7. 壱岐の古墳群を訪ねて

大和王権の時代にも「一支国」の重要性は変わらない

多くの古墳が島の中央丘陵地に作られ 朝鮮半島と大和の交流を支えました

■ **カラカミ遺跡** 原の辻遺跡と並ぶ壱岐弥生を中心集落 祭祀の集落の性格

カラカミ神社のある丘陵の西側を南北にめぐる溝状遺構（環濠）が確認されており、そこからは弥生土器や石器をはじめ、占いの道具である卜骨（ぼっこつ）や、朝鮮半島の三韓土器、楽浪系の土器など、多数の遺物が出土しています。



■ **掛木古墳** 6世紀末

くりぬき式家型石棺の円墳

■ **鬼の窟** 6世紀後半

横穴式石室の円墳

■ **双六古墳** 長崎県最大の前方後円墳 6世紀後半





8. 筑前 奴国の心臓部 月隈丘陵には数々の遺跡がある

1. 金隈弥生遺跡 弥生通期 348基の甕棺墓に圧倒される
2. 板付遺跡 縄文晩期の水田跡 環濠が今もきれいに残る



御笠川東岸を南北に月隈丘陵がつらなる

縄文晩期・弥生の環濠集落 板付遺跡 弥生人の大共同墓地 金隈遺跡

■ 金隈弥生遺跡 500に近い弥生人が眠る共同墓地 まだその集落はみつかっていないという・・・

御笠川の東岸を南北に連なる月隈丘陵は奴国の心臓部 その中央部に金隈遺跡がある。北部九州弥生時代の特徴的な墓制である甕棺墓を主とする墓地跡。標高30mの丘陵上に、前期から後期にかけて甕棺墓348基、土壙墓・木棺墓119基、石棺墓2基が営まれていた。土井が浜人と呼ばれる渡来系弥生人400年間の墓。その甕棺墓の数に圧倒される



年代	一九〇〇	一八〇〇	一七〇〇	一六〇〇	一五〇〇	一四〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一一〇〇	一〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	A.D.1	B.C.1000	B.C.800	B.C.600	B.C.400	B.C.200	B.C.100	B.C.0																									
北海道	アイヌ文化期														オホーツク文化期				縄文時代				縄文時代				旧石器時代																									
本州・四国・九州	近世		中世			古代				古墳時代		弥生時代		縄文時代				旧石器時代																																		
近代	江戸時代		安土桃山時代	室町時代	南北朝時代	鎌倉時代	平安時代			奈良時代	飛鳥時代	後期	中期	前期	後期	中期	前期	晩期	後期	中期	前期	早期	草創期	後期	(中期)																											
沖縄	近世琉球		古琉球			グスク時代				後期		貝塚時代				前期貝塚時代		旧石器時代																																		
中国	清	明			元	金	南宋	北宋	五代	唐			隋	南北朝	東晋	西晋	魏	後漢	新	前漢	秦	周	殷	新石器時代				旧石器時代																								
朝鮮	朝鮮(李朝)			高麗			新羅				高句麗	新羅	百濟	帶方郡	楽浪郡	青銅器時代				新石器時代		旧石器時代																														
展示品を中心とした主なできごと	<p>一八六九 東京が首都となり、天皇・公家が京都から移る</p> <p>一六〇三 江戸幕府が成立する。このころ各地の拠点に大名が配置され、城と城下町の整備が進む</p> <p>一五〇〇 織田信長が全国統一をめざし、それを引き継いだ豊臣秀吉が一五九〇に東北地方を平定、全国統一を果たす</p> <p>一四〇〇 足利義満、日明貿易(勘合貿易)を始める</p> <p>一三〇〇 応仁の乱後、各地に戦国大名が台頭し、拠点となる城や館が営まれる</p> <p>一二〇〇 源頼朝、鎌倉幕府を開く</p> <p>一一〇〇 足利尊氏、室町幕府を開く</p> <p>一〇〇〇 宋・高麗との貿易が盛んとなり、中国製陶磁器が流通する</p> <p>九〇〇 源氏や平氏などの武家が台頭する</p> <p>八〇〇 一三〇七 聖徳太子、小野妹子を隋に遣わす</p> <p>七〇〇 六四五 大化の改新、律令体制づくり始まる</p> <p>六〇〇 各地で寺院が盛んに造られる</p> <p>五〇〇 七一〇 平城京へ都を移す。このころ地方の役所が整備される</p> <p>四〇〇 七四一 国分寺建立詔</p> <p>三〇〇 七八四 長岡京へ都を移す</p> <p>二〇〇 七九四 平安京へ都を移す</p> <p>一〇〇 唐風の弘仁・貞観文化</p> <p>八〇〇 八九四 遣唐使を廃止する</p> <p>七〇〇 群集墓・横穴墓が盛んに築かれる</p> <p>六〇〇 五七 倭の奴国王、後漢に入貢し、金印を受ける</p> <p>五〇〇 北陸に環濠集落が造られる</p> <p>四〇〇 二二九 邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使いを送る</p> <p>三〇〇 前方後円墳が各地で築かれる</p> <p>二〇〇 豪族居館が各地に造られ始める</p> <p>一〇〇 朝鮮半島から乗馬の風習などが伝わる</p> <p>〇 倭の五王、中国に使節を送る</p> <p>人物埴輪を中心とした埴輪祭祀が盛んになる</p> <p>五二七 筑紫君磐井の乱</p>																		東日本で大規模な縄文環状集落が発達する		気候の温暖化により、海水面上昇する(縄文海進)		漁撈が発達し、大陸との交流も盛んになる		東日本で亀ヶ岡文化が栄え、漆製品が発達する		北部九州に水田稲作が伝わる		鉄器や青銅器の使用が始まる		水田稲作が東北北部に波及する		倭、一〇〇余国に分かれ、楽浪郡に朝貢する		五七 倭の奴国王、後漢に入貢し、金印を受ける		北陸に環濠集落が造られる		二二九 邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使いを送る		前方後円墳が各地で築かれる		豪族居館が各地に造られ始める		朝鮮半島から乗馬の風習などが伝わる		倭の五王、中国に使節を送る		人物埴輪を中心とした埴輪祭祀が盛んになる		五二七 筑紫君磐井の乱	
遺跡名	<p>高知城跡(伝下城跡)</p> <p>若林城跡</p> <p>亀ヶ崎城跡</p> <p>北園遺跡</p> <p>村松白根遺跡</p> <p>博多遺跡群</p> <p>旧相模川橋脚</p> <p>松法川北岸遺跡</p> <p>大塚西2号墳</p> <p>二光寺廃寺</p> <p>稲古跡古墳、栄町遺跡</p> <p>トコロチャン跡遺跡</p> <p>箱根田遺跡、中原遺跡</p> <p>長岡京跡など</p> <p>青木遺跡</p> <p>三軒屋遺跡</p> <p>西新町遺跡、藤崎遺跡</p> <p>極楽寺ヒビキ遺跡</p> <p>剣崎長瀬西遺跡など</p> <p>新田原古墳群白足塚古墳</p> <p>吹上遺跡</p> <p>八ノ坪遺跡、白藤遺跡</p> <p>荒谷遺跡</p> <p>山賀遺跡</p> <p>雑瀬遺跡</p> <p>中屋サウ遺跡</p> <p>梅之不遺跡</p> <p>小林遺跡、美々5遺跡など</p> <p>キウス9遺跡</p> <p>高原山黒川石原産地遺跡</p> <p>群別ヶ峯地区</p> <p>富士石遺跡</p> <p>六通神社南遺跡</p> <p>大正3遺跡</p>																																																			

※1 年代の(一)は従来の四年代測定法による修正年代
 ※2 縄文時代晩期後半を弥生時代早期とする地域もある
 ※3 遺跡名の太字は特筆「遺跡で広く国際交流」で取り上げた遺跡